

がん検診で要精密検査(陽性) と言われたら…

要精密検査(陽性)となった場合には、確定診断のため必ず精密検査を受けてください。

胃がん検診の精密検査

■必要な検査

胃内視鏡検査などが行われます。

■胃がんと診断される確率

精密検査を受けた方の中で、がんと診断される確率は約 2.5%です。

■胃がんについて

全がん死亡数のうち、胃がん死亡数は、肺がん、大腸がんに次いで3番目に多いです。



大腸がん検診の精密検査

■必要な検査

主に全大腸内視鏡検査が行われます。なお、便潜血検査では確定診断ができず、がんの見落としにつながります。

陽性が出たときは、必ず全大腸内視鏡検査を受けましょう。

■大腸がんと診断される確率

便潜血陽性の場合、がんがある確率は約2~3%、ポリープについては約20%です。

■大腸がんについて

大腸がんにかかる方は急増しており、がんによる死亡数でも第2位になりました。



肺がん検診の精密検査

■必要な検査

胸部CT検査や気管支鏡検査などが行われます。

■肺がんと診断される確率

精密検査を受けた方の中で、がんと診断される確率は約2%ですが、肺がん以外にも早めに治療した方が良い病気が見つかる場合もあります。

■肺がんについて

肺がんは日本人のがんによる死亡数の第1位です。



乳がん検診の精密検査

■必要な検査

マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、穿針吸引細胞診、針生検等が行われます。

■乳がんと診断される確率

精密検査を受けた方の中で、がんと診断される確率は約4%です。

■乳がんについて

女性が最もかかりやすいがんは乳がんであり、日本人女性の9人に1人がかかると言われています。また女性の全がん死亡数のうち、乳がん死亡数は4番目に多いです。



子宮頸がん検診の精密検査

■必要な検査

健診結果に基づいてコルポ診(腔拡大鏡による診察)、HPV(ヒトパピローマウイルス)検査などを組み合わせたものが行われます。

■子宮頸がんと診断される確率

精密検査を受けた方の中で、がんと診断される確率は約1~2%、前がん病変である異形成以上の病変が見つかる確率は約40~77%です。

■子宮頸がんについて

子宮頸がん罹患する人は、全てのがん罹患者のうち5番目に多く、近年増加傾向にあります。



※必要な検査内容は一例であり、医療機関により異なります。

※日本医師会のホームページを参考にしています。

精密検査受診時は、医師にその後の治療方針を確認し、医療機関での経過観察が不要であれば、検診を継続して受診する事が大切です。

長浜市健康推進課 電話:65-7759

平日 9:00~16:45

